

## 札幌市 2019年第2回定例市議会(6月13日～7月5日)

6月20日 代表質問 石川 佐和子

2019年度札幌市一般会計補正予算、札幌市子ども医療費助成条例の一部を改正する条例案など議案17件に賛成し可決されました。一般会計予算額は、肉付け予算としての今回の補正額34億円を加えると、1兆227億円となり、6年連続で過去最大を更新しています。札幌市の財政状況については、市債残高や基金の活用額が中期財政フレームの枠組みに収まることとして、財政運営の健全性をアピールしています。しかし、6年連続で増加している市債残高、とりわけ、臨時財政対策債が2019年度末で5,291億円という膨大な金額に膨れています。「人を大事にする」という視点をまちづくりの根幹に据えるとともに、次世代に負担を先送りしない「健全な財政運営」を堅持することが重要です。地方財政の充実・強化を求める意見書、2019年度北海道最低賃金改正等に関する意見書等の意見書案4件が可決されました。

質 問	答 弁
<p><b>1. 市長の政治姿勢について</b></p> <p>(1) 市民自治によるまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>札幌市がさまざまな市政課題に応じていくには、市の政策などの立案、実施、評価の各段階において、市民が意見を述べ提案する市政への市民参加を欠かすことはできない。年末年始や大型連休を挟む場合のパブリックコメントの募集期間は休日を除いて30日以上とすることや、公募委員のいる附属機関を増やすなど改善すべき。秋元市政の2期目において、市民の市政への参画の機会をさらに広げるとともに、広く市民の意思を把握し、市政運営に反映することを力強く推し進めるべきと考えるが、今後どのように取り組むのか。</li> </ul> <p>(2) 北海道大演習場における米海兵隊オスプレイの訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防衛省は、2020年1月から3月に、米海兵隊の輸送機オスプレイが参加する日米共同訓練を北海道内で実施するとしている。市民の不安な声をしっかり受けとめ、米軍オスプレイの北海道大演習場など道内訓練に反対を表明し、道内の関係自治体とともに、防衛省に対し、訓練の中止を求めるべきと考えるが、いかがか。</li> </ul> <p><b>2. 次期中期実施計画アクションプラン2019について</b></p> <p>(1) 市民との情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画の前提となる長期的な財政の見通しについて明らかにし、今後の計画が過度な負担とならないのか、市民と議論することが必要不可欠だ。アクションプラン策定に当たっては、子ども、若者、子育て世代、障がいのある方など、市民がさまざまな計画について議論できるよう、わかりやすく情報を提供し、市民の声を反映することが重要と考えるが、アクションプラン2019の策定に当たって、どのように市民と情報共有し、どのように意見を反映していくのか、伺う。</li> </ul> <p>(2) 区におけるまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」では、各区の特色を生かしたさまざまな事業が行われているものの、区という総合的な市民の生活空間に着目して、そこから地域の課題や要望を政策化し、予算立てするものになっているとは言えず、また、そのようなことを可能にする仕組みも整っていないと感じている。今後は、市の部局の事業を区ごとに機械的に束ねたものではなく、地域の課題や要望に応じて予算の使い方を決めることができるよう、区役所のあり方を含めて仕組みをつくっていくべきと考える。次期中期計画の策定に当たっては、区のまちづくりに今後も一層力を入れて取り組み、地域を応援する具体的な取り組みを反映するべきと考えるが、今後の区におけるまちづくりについて、秋元市長はどのように考えているか。</li> </ul> <p><b>3. 篠路駅周辺地区のまちづくりについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>篠路駅周辺地区においては、土地区画整理事業や鉄道高架事業などの社会基盤整備を進めていく中、にぎわいの創出や活力のあるまちづくりに向け、地域と行政がさらに一体となって取り組むべきと考えるが、札幌市の認識について伺う。</li> </ul>	<p><b>1.</b></p> <p>(1) (秋元市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域における課題が多様化する中、その解決を図っていく上で、市民が主役となるまちづくりをこれまで以上に深めていくことは、大変重要であると認識をしている。そのため、パブリックコメントについては、年末年始などを挟む場合の募集期間に配慮することや、附属機関委員について、それぞれの機関の性格に応じた公募の推進など、可能な限りの対応をしていきたい。今後も、市民自治によるまちづくりを一層進めていくために、引き続き、市民が市政に参加する機会の充実を図っていくとともに、より効果的な市政情報の発信と市民意見の把握に努めていく。</li> </ul> <p>(2) (秋元市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オスプレイの訓練については、市民の中に不安や懸念の声もあることから、これまでも、十分な情報提供や徹底した安全管理について、国に対し、要請をしてきたところ。今後も、引き続き、関係自治体と連携を図りながら、市民の安全・安心が守られるよう国に働きかけていく。</li> </ul> <p><b>2.</b></p> <p>(1) (秋元市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次期中期実施計画は、今後4年間に取り組む事業を具体的に示しつつ、長期的な財政見通しを踏まえた中期財政フレームにより実行性を担保する、まちづくりと行財政運営の取り組みを一体としたもの。これまでも、計画の策定に当たっては、市民アンケートやパブリックコメントなどを通じて市民意見を把握した上で、方向性や盛り込むべき事業の検討を進めてきたところだ。次期計画の策定に当たっては、こうした手段に加えて、まちづくりの課題を共有し、さまざまな世代が意見を交わすシンポジウムや、とりわけ若者向けのワークショップ等を実施することとして、市民意見の把握と計画への反映に努めていく。</li> </ul> <p>(2) (秋元市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各区の課題や実情を踏まえたまちづくりの推進は重要であり、これまでも、「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」において、地域の意見等を反映した取り組みを進めているところ。次期アクションプランにおいては、健康寿命延伸の取り組みを初めとする、本庁所管部局と全ての区が連携して実施すべき事業や、区の特色を生かした意欲的な事業について、既存の事業とは別に計画化を検討しているところだ。今後は、地域コミュニティーがより一層活性化していくよう、区の特徴を生かしたまちづくりを進めていきたい。</li> </ul> <p><b>3. (吉岡副市長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>札幌市では、地域交流拠点である篠路駅周辺地区において、土地区画整理事業や鉄道高架事業などにより、社会基盤の整備を進めているところ。これら事業の実施に当たっては、篠路駅東口を中心として、民間事業者による高度利用を促進するなど、公民連携により駅前のにぎわいを創出していく。また、地域が主体となって進めてきたまちづくり活動をこれまで以上に力強く支援するとともに、地域の声や民間の活力を積極的に取り入れながら各種の関連事業を進め、篠路駅周辺地区の魅力向上を図っていく。</li> </ul>
<p><b>再質問</b></p> <p>(1) 区のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こうしたそれまでの事業と別の事業を計画、検討するに当たって、地域のさまざまな意見を反映させていくべきと考えるが、どのように進めるのか、伺う。</li> <li>私たちにとって身近な区の取り組みにおいて、市民が意見を出しやすくするとともに、参加をしやすくするために、新たな事業計画については、わかりやすく示していくべきと考えるが、いかがか伺う。</li> </ul>	<p><b>再質問答弁 (秋元市長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次期アクションプランにおいては、これまでと同様、区民協議会あるいは町内会を初めとした地域の皆様の声をしっかり伺いながら、区の事業の構築を含めて計画化していきたい。また、計画においては、区の取り組みも含めて、今後4年間に取り組む事業の全体像、これを市民の皆様に広く理解していただけるよう、わかりやすい説明をしていきたい。区のいろいろな事業についても、区の特徴を生かしながら、何を目指しているのかという狙いもあわせて示していきたい。</li> </ul>